

1. 日時 : 2015年7月31日(金)16:00-17:00
2. 出席者数 : 90名
3. 主な質疑内容:

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。巻末に注意事項を記載しています。－

Q. 石油精製販売事業における白油4品のマージンが足元で下落しているが、8月以降のマージンの水準はどのように見ているか？

A. 第1四半期の白油4品の石油精製マージンは、製品ごとでは低迷していたものもあったが、全体としては堅調であった。足元のマージンの下落は、現状、原油価格の下落に伴うタイムラグによるものと考えているため、8月以降のマージンについては、回復すると見ている。

*タイムラグとは、石油製品の売値とコストに時間差が発生すること。石油製品の売値は直近の原油価格が反映される一方、コストはおよそ1か月前に購入した原油価格（産油国における積み月の原油価格）が反映されるため、原油価格の変動局面においては、売値とコストに一時的な値差が生じる。

Q. カセロネス鉱山について、銅精鉱生産のフル操業が9月の予定とのことだが、現状の進捗について教えていただきたい。また、9月にフル操業に到達できる確実性はどの程度か？

A. 銅精鉱の生産立ち上げについては、グループの総力をあげて、廃さい堆積場の整備と生産設備の自動運転プログラムの構築による安定操業体制の確立を進めてきた。この結果、7月下旬より、フル操業の70%程度まで操業度が到達しており、9月中にはフル操業へ到達できるものと考えている。

以 上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化、
- (3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。